

記者提供資料
2026年(令和8年)5月20日
市民生活局 文化・スポーツ室 歴史文化財担当(担当:稲原・下城) TEL:078-918-5629(内線:7545)

大久保町西島で鎌倉～室町時代の須恵器窯など4基発見

このたび、大久保町西島において明石市が行った発掘調査で、鎌倉～室町時代に操業していた窖窯や平窯・煙管状窯が計4基見つかりました。

調査は、民間の宅地造成工事に伴い、2025(令和7)年12月23日から2026(令和8)年2月20日にかけて行われたものです。

また、不良品を廃棄した灰原からは、コンテナにして180箱におよぶ多量の須恵器が出土しました。

調査地は、赤根川の右岸から約200m西の段丘を刻んで、北から南に向かって下る小谷筋の西斜面に立地しています。事業区の中央部で西から東にかけて下る崖面が南北方向に走っており、以前に行った分布調査では12、14、15号窯の3基の窯が存在することが推定されていました。調査を行ったのは西側の段丘面上の一部と、斜面下の東から南にかけての事業区際の部分で、調査面積は411㎡でした。

調査区からは4基の窯が見つかりました。

1号窯は地上式の窖窯で、最大幅約2.7m、確認された長さは約4mでしたが、全体では8mほどあったと推定されます。床面は4面確認され、窯壁と床面を作り直しつつ複数回、製品を焼いていたことがわかりました。それぞれの床面は5～10°の緩やかな傾斜をもっています。窯内や灰原からは、13世紀前半に位置付けられる須恵器こね鉢(調理具の一つ)、甕などが出土しており、こうした須恵器を焼成した窯であったと考えられます。

2・3号窯は地上式の平窯で、径約1.5mの楕円形を呈しています。須恵器を焼台として用い、土師器の蛸壺を主に焼いていたと考えられます。窯底部には火の通りをよくするため馬蹄形をした周溝が掘られていました。当地から約200m東に位置する地点では、2023年に発掘調査が行われ、ここでも同様の蛸壺を焼成した平窯が見つかっています。

5号窯は半地下式の煙管状窯で、径約1.2mの楕円形を呈し、焚口から窯内にかけてのトンネル状構造が良好に残存していました。焚口のアーチ部分には須恵器捏鉢の破片を貼り付けて補強していました。土師器の皿を主に焼いた窯とみられます。

これらの窯の他に、窯に隣接して窯の壁を作るための粘土を採った土坑や、ロクロピットと呼ばれる土器をつくるため、回転台を据えるための穴なども見つかっています。

今回の調査地点は、魚住古窯跡群赤根川支群に属します。魚住古窯跡群は、12世紀前半から明石市の魚住町中尾川流域で須恵器のこね鉢や碗、甕の他、瓦を焼き始め、その後、13世紀中葉に赤根川流域に場所を変え、主に須恵器のこね鉢、甕を中心として焼いていた窯跡群です。焼かれた製品のうち、瓦は平安京などに運ばれ、須恵器は関東から九州まで広い範囲にわたって流通していたことがわかっています。中尾川支群は昭和54年度に兵庫県教育委員会、昭和55年度に平安博物館によって行われ、10基の窯と、2基の窯に伴う灰原が確認されています。一方、赤根川支群での発掘調査としては、平成11年度に行った14世紀

代の須恵器甕を焼いた19号窯の調査と、平成 22 年度に実施した蛸壺を焼いた平窯の2基のみでした。

今回の調査で見つかった窖窯は、これまで魚住古窯跡群で調査が行われてきた窯の中でも最も規模が大きいもので、大型の須恵器甕を中心に焼いた窯であることがわかりました。また、周辺には灰原が広がっており、そこから大量に出土した遺物から、調査区外の斜面にはいくつか窖窯が存在していたことがうかがえました。出土遺物では軒平瓦や丸・平瓦なども見つかっており、これまでは瓦の生産が行われなくなっていたと考えられていた赤根川支群においても、瓦生産が行われていたことが明らかとなり、中尾川支群から赤根川支群へと移行する時期の様相を知る上でも興味深い事例となりました。

また、土師器の蛸壺を焼いた桶窯や土師器の皿を焼いた煙管状窯なども同時に作られていたことが確認され、当時、須恵器生産を行う傍ら、構造の異なる窯で、土器生産を行っていたことをうかがい知ることができました。

さらに、窯に隣接した場所で、窯をつくるための壁材となる粘土を採掘した跡や、土器をつくるためのロクロピットなども見つかかり、土器をつくり、窯を使ってやきものを焼くまでの工程を面的に復元することができました。

このたびの調査により、中世の時期に須恵器のこね鉢や甕の一大生産地であった魚住古窯跡群の隆盛ぶりの一端を垣間見ることができた点で貴重な成果となりました。

なお、出土した遺物の一部と窯跡のパネルは、魚住文化財収蔵庫にて「中世窯・魚住古窯跡群展」【5月21日(木)～6月28日(日)】にて、他の遺跡の出土品と共に展示します。(休館日：月曜日、土・日：開館)。



1号窯(宥窯) 第1次床面 出土状況 東から



2号窯(馬蹄形平窯) 土器出土状況
北から



5号窯(煙管状窯) 完掘状況
北から



1号窯 作業状況



2号窯 作業状況



1・2・3号窯(手前)と灰原(奥) 北から



5号窯(中央)と灰原(奥) 東から



須恵器甕・捏鉢を含む灰原の一部



須恵器捏鉢



須恵器甕